

【社会・小4・きょう土に伝わる願い～残したいもの、伝えたいもの】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 県内の文化財や年中行事は地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いがあることを理解できるとともに、見学や調査をしたり調べたりして年表にまとめることができる。
- (思考力・判断力・表現力等) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子から人々の願いや努力を考え、表現することができる。
- (学びに向かう力、人間性等) 県内の文化財や年中行事について主体的に学習問題を追究しようとしたり、地域の伝統や文化の保存・継承について自分にできることを考えようとしたりする。

ICT活用のポイント

グループで協働した資料（年表）づくりと、複数の資料を比較・関連付けて考え、まとめる授業

事例の概要

- グループ別に県内の文化財や年中行事について調べたことを年表にまとめる。
- グループごとに作成した年表を基に、共通点や相違点をグループや全体で話し合う。

【つかむ】前時を振り返り、本時のめあてを設定する。

【追究する】県内の文化財・年中行事の年表を作成し、それらを大切に守ってきた人々の願いや思いを考える。

【まとめる】年表づくりや話し合いを基にまとめる。

【事例におけるICT活用の場面①】

- グループ別に調べた県内の文化財や年中行事について、代表者のICT端末にて学習支援ソフトを活用して協力しながら年表を作成する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- グループ別に作成した年表を学習支援ソフトを通して提出し、全体で共有する。
- 全グループの年表を見て、共通点や相違点をグループで話し合い、代表者ICT端末にて学習支援ソフトのカードにまとめる。
- カードを学習支援ソフトを通して提出し、全体で共有する。

【社会・小4・きょう土に伝わる願い～残したいもの、伝えたいもの】②

【事例におけるICT活用の場面①】

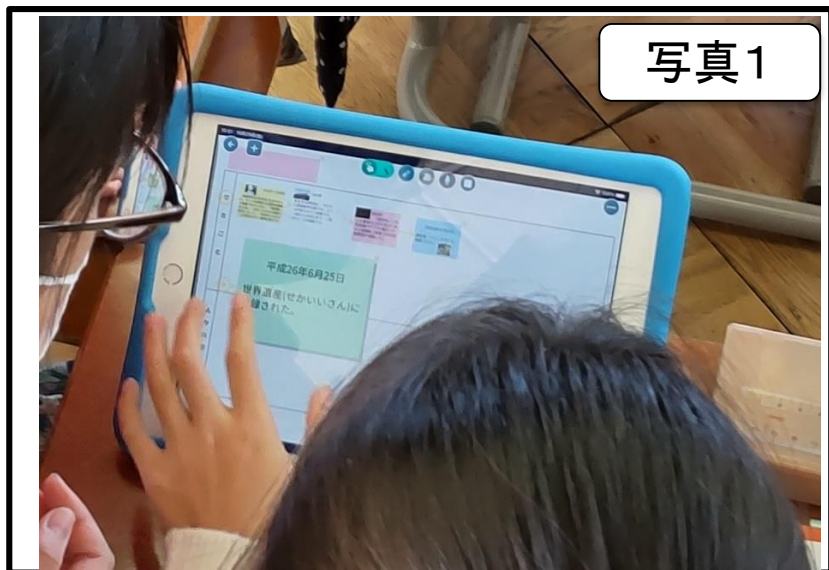


写真1

前時までに調べた県内に残る文化財に関する出来事について学習支援ソフトのカードに書かせ、教師が用意した年表のフォーマットにカードを貼ることで年表を作成させた。写真1は、グループのメンバーと協働して年表を作成しているところである。電子カードや画像は縦横自由に大きさを換えられ、自由に張り替えもできるので、模造紙等で年表を作成するより短時間で効率よく、きれいに作成することができた。また、フォーマットが統一されているので、他のグループの年表と比較するのに最適な年表が完成した。

【活用したソフトや機能】

・学習支援ソフト（カード・提出・保存）

【事例におけるICT活用の場面②】



写真2

グループごとに作成した年表を学習支援ソフトを通して教師用ICT端末に提出させ、それぞれの年表を共有した。それらの年表をもとにグループで話し合わせ、共通点や相違点を考えさせた。写真2は、他のグループが作成した年表を見て、話し合いをしているところである。ICT端末を使用したことで共通点や相違点がつかみやすくなり、多くの児童はどの伝統文化にもその地域の人々の願いや思いが込められていることに気付くことができていた。

【活用したソフトや機能】

・学習支援ソフト（カード・提出・共有・保存）